

鶴岡市総合計画審議会 第5回企画専門委員会（会議概要）

- 日 時 平成30年10月2日(火) 午後3時から
- 会 場 鶴岡市先端研究産業支援センター 共用棟 大会議室
- 委員発言の概要

めざす都市像について

- ・楽しくて、安心して住み続けられるまちにしたい。自慢できることがあるというのもいいと思う。鶴岡の人は優しいということを入れたいと考えた。（「愛ある優しい暮らしがある街つるおか」）
- ・中学生程度からわかる文言を意識した。誰が読むのか、どのくらいの人が見てくれるのかという観点から考える必要もある。（「いいよ 鶴岡 かわったよ 鶴岡 語ろうよ 鶴岡 」）
- ・鶴岡にしかないものは何かと考えると、「食」が一番ではないか。ユネスコ認定のみならず、食に対しての昔からの思い、これからへの思いなど、コアな思いがあると思うので、鶴岡ならではの言葉として「食」をキーワードと考えた。（「食が育むまち・鶴岡」）
- ・「チャレンジ」という言葉を入れたかったが、最初の言葉としては強いと思い、「創造的」とした。ある意味で、チャレンジできるまちということを表現したいと考えた。（「豊かな自然と創造的な暮らし 一田園文化都市 鶴岡一 」）
- ・楽しく、「まめ」に。「まめ」という言葉には、元気、勤勉、誠実、丁寧な生き方をしようという思いがある。また、楽しくなければならぬ。「食文化」もアピールしつつ、他にもあるということも伝えたい。（「楽しく“まめ”にくらせるまち 食文化だけじゃない「ある。」衣・食・住」）
- ・具体的な言葉を入れることが難しい中で、「人」にフォーカスし、ここに住んでいる人がどういう状態でいたいのかということが一行に入っていればよいのではないかと考えた。その地域に住んでいる人が未来にワクワクする、自分の子供に対していつか帰っておいでと言えりような街が好ましいのではないか。（「地域に暮らす私たちが、地域の未来にワクワクする街。」）
- ・キーワードとして「歴史」「伝統」「文化」と、合併6市町村も意識して「ひとつづくり」「まちづくり」を入れたいと考えた。（「鶴岡市の『歴史、伝統、文化』を継承・発展させ、各地域の特質を最大限に活用しながら、個性豊かな『ひとつづくり・まちづくり』を基本に、創意と活力あふれる『輝くまち鶴岡』を創造します。」）
- ・東北一広い、海岸から山間まで、それぞれの地域に「文化」があるということ表現したいと考えた。（「歴史と伝統文化、気品あふれる街 品位と品格のある街」）
- ・鶴岡で今、自慢できるものは何か、これから発展させていく上で基本になるものは何かという観点で考えた。鶴岡は個性豊かだからこそ住んでいる、そういうことを匂わせたいと考えた。（「豊かな自然、農業と食文化、学術と産業による個性豊かなまち、鶴岡。」）
- ・全体を俯瞰する観点を重視した。人、歴史、鶴岡を象徴する海や山など自然環境が、三位一体となることが土台と考えた。人が一番の力になるので、あらゆる年代の人に優しいまちづくりが重

要。それと先人が培ったものをつなぐものが、未来への創造ではないか。（「人と時と自然と。共に未来を創造する みんなに優しいまち 鶴岡」）

- ・毎日おいしい食事を摂れるということが、いまの鶴岡のすべてを象徴することであり、ここ10年くらいはそういうことがベースになるのではないか。（「毎日、おいしい。ここで、暮らしたい。」）
- ・各委員が考えためざす都市像を大きく分けると、感覚に訴えるものと、具体的に何かを示すものと二つに分かれると思うが、感覚に訴えられる文章がいいのではないかと思う。
- ・未来創造のプロジェクトもまちづくりの基本方針も硬いものになっている。めざす都市像は、市民にとって総合計画の入口になるようなものを目指すという観点で行けば、キャッチフレーズのようなものが面白くていいのではないか。
- ・三つのまちづくりの基本方針は真面目な印象である。トップに来るめざす都市像まで、真面目、硬めである必要はないのではないか。
- ・キャッチフレーズのようなものでもいいと思うが、前回や前々回の総合計画も踏まえると、斬新過ぎるものもどうかという思いもある。過去とのギャップも含め、複合的に見ていく必要がある。
- ・「毎日、おいしい」とは何のことだろう、「ここで、暮らしたい」とはどういう意味なのだろうというように、読む人それぞれが思いを込められるというのがいいと思う。感覚的なものもいい。読んでいる人もいろいろなことをイメージングすることができる。
- ・「毎日、おいしい。ここで、暮らしたい」は、抽象的な表現をキャッチコピーに入れつつ、具体的なものを想起させる形になっている。
- ・鶴岡で一生を過ごしたいと思う方々を増やしていくことが必要で、ここで「暮らしたい」という感覚になれるような都市像が欲しい。「未来」という言葉も議論の中でよく出てきているので、そういう感覚になれるようなものもいい。
- ・キャッチコピーが誰に向けられたものなのかを考えると、既にここに住んでいる人に対してここで暮らしたいということ訴えるという形にはならないのではないか。誰に向かって訴えたいのか重点的に考えていくことが必要ではないか。
- ・鶴岡に転入して来て、また転出してしまった人もいる。鶴岡から離れてしまう理由は何か。
- ・鶴岡への移住を希望したけれども、断念した人の断念理由を解析することも必要ではないか。実施計画をたてるときの参考にもなると思う。
- ・Uターンしたいと考えている若者は多い一方で、親御さんは子供に東京に出ることを勧めることが多いと聞く。若者をUターンさせるためにも、親の世代がキーワードとして聞いて、ハッとするような都市像がよいのではないか。ここで暮らせる豊かさ鶴岡、ここで暮らせる幸せ鶴岡という言葉などはどうか。
- ・10年後にこうしたいということによいのではないか。毎日おいしいということや、楽しいことだとか、全てを含めた形でもいいのではないか。
- ・委員各位の意見をまとめて、凝縮して短文にするということも考えられる。
- ・キャッチコピー的なものでいくか、短文がいいか、どちらでいくか決めたらいいのではないか。
- ・めざす都市像の後ろにサブ的な文書をつける形はどうか。キャッチコピー部分と短い説明をペアにするような形はどうか。

- ・説明文としてさりげない文章をつける形がよいかもしいない。
- ・都市像に説明文を付すとしても、どのレベルまでつけるのか検討が必要ではないか。

まちづくりの基本方針について

- ・「少子高齢化社会に向き合う」にあたり、「ここならではの資源をもっと活かして」ということだけでは、今ある資源だけを使うというイメージになり、これだけでは「安全で安心なまち」を築くことはできないのではないかと感じる。もう一つ新しいものを組み合わせるようなイメージがあるといいのではないか。
- ・「地域の個性を磨き」という文言によって、旧町村地域への配慮を、続く「つるおかというまち」という文言から一体感の醸成という配慮を感じることができる。
- ・「人」に対する向かい方が、二つ目の方針にも三つ目の方針にも出てきているように感じる。人に対する対策がだぶっているように感じる。
- ・「市民と行政が力を合わせる」というよりも、自分のことは自分でやらなければいけない時が来るのではないかと思う。「人にも環境にもやさしい」という文言を取ってしまうのはどうか。
- ・二つ目の方針の「少子高齢化社会」という文言は、三つ目の方針の「人にも環境にもやさしい・・・」に含める形とし、二つ目の方針には「市民総活躍」という観点をいれていけばどうか。少子高齢化でもネガティブにならず、自立してやろうという意識を醸成できるのではないか。
- ・三つ目の方針「人にも環境にもやさしい・・・」を一番目にもってきてもいいのではないか。
- ・少子高齢化社会でも、市民と行政が力を合わせて進むという形にすると座りがよいのではないか。
- ・人口減少という言葉を使わず、少子高齢化という言葉を使っていくのであれば、「少子・高齢化」という形で、少子と高齢の間に「・」を入れるべきなのではないか。
- ・基本方針のどこかに「文化」という言葉を入れることはできないものか。食文化などもあることであるし。
- ・まちづくりの基本方針では、何かをするということではなくて、方針を考えていかなければならない。
- ・地域の個性を磨くといったいい言葉もあり、言葉を組み替えていくことで基本方針を構築できるのではないか。

構成等について

- ・未来創造のプロジェクトは、予算の優先順位を上げるべきことを書いていくものと期待していた。この総合計画の特徴が少し薄まったというイメージもある。
- ・未来創造のプロジェクトの序列を企画専門委員会で決めることは難しい。分野横断的なプロジェクトを設けるということ自体、これまでの総合計画からは一歩前進であると思う。
- ・未来創造のプロジェクトは、基本計画の後ろに来るものであるといえども、プロジェクトという言葉の響きからは、重点的にやってくれるものだという印象が強くなるのではないか。